

## A12 (桜井中央)

### 【 万葉歌人 舎人親王の居住伝承 】

～ 春日神社 <sup>とねり</sup> 舎人親王万葉歌碑 ～



『日本書紀』は舎人親王<sup>とねり</sup>を編纂総裁官として成立しました。当時、親王は平城京域に住んでいましたが、父である天武天皇の飛鳥京時代の旧居の近く「高屋」の屋敷を修復して史書編纂の構想を練られたとされています。

万葉集には「ぬばたまの夜霧ぞたてる衣手を高屋のうへにたなびくまでに」(夜霧が立っている。高い屋根の上に横に長くかかるほどに立っていることだ。)といううたがあり、親王は桜井市高家の春日神社のあるあたりに住居を構えていたのではないかと考えられています。この場所は、北にもひらけ、西に甘樫丘が見下ろすことができ、畝傍山、二上山も望むことができる絶好の地です。

(桜井市 高家)